第３号

坂の上の暮らし

（2022年度県民ボランティア振興基金事業）

2022年9月18日

させぼ山手研究会(Sasebo Yamanote Workshop)
Email:mitsuguhimaki72@gmail.com

電090（4205）7471
（編集・責任　檜槙　貢　理事長）

もう一度「坂の上の暮らし」を

この半年、佐世保市都心部にある白南風町の標高60メートル辺りを中心に坂を登り、坂を下った。そこで学んだのは2つの見方である。１つは「住民の暮らし」。もう１つは「空家、空き地、低未利用地のエリア」のこと。この2つの見方にこだわることが私たちの活動の原点ではないかということである。

●住民参加のワークショップ

「住民の声」を聞きたい。「坂の暮らし」の人間関係を知りたい。人口が減り、空家や空き地の多い地域でどう生きるのかを学びたい。そんな思いで、8月24日（水）の10時に私たちの事務所（旧指山博義邸）2階に集まってもらった。白南風公民館の突然の休館によるものだった。そこに大雨が降った。それでも22名が参加された。

9月20日（火）にもう一度集まってもらう。「住民の声」を聞きたい。「坂の暮らし」の人間関係を知りたい。同じテーマで語ってもらう。

●斜面居住を俯瞰する

8月9日に「令和4年度NPO/ボランティア活動支援基金交付決定」を受けた。長崎県県民ボランティア振興基金からの10割助成である。事業名は「斜面地居住再生に向けての低未利用地活性化モデル事業」だ。白南風町の空家、空き地、低未利用地のエリアを再生するモデル的活動が期待されている。この活動では、斜面居住地を俯瞰しながら、共有すべき「公共性」とそれを実現する手段を発見する。

先ごろ、日本建築学会研究論文を整理する機会があった。全国各地で、低未利用地活性化に関する活動が盛んに行われていることを知った。特に、北九州市の旧八幡製鉄所周辺の斜面居住地への住民主体の活動である。かつて集積した居住環境とその記憶を未来に残す動きでもある。九州大学を中心に大学、高専等の研究者が模索を続けている。

私たちもその隊列に加わりたい。佐世保市の斜面地をよく見ると、棚田のような地形に住宅が建っていた。海に働く基地、造船所、工場、商店街が見渡せる。佐世保市民にとって大事にしたい風景であり、視点場でもある（ＭＨ）。

「新理事就任」

8月10日理事会において、新理事として「田代佐夫子氏」が就任した。高校卒業まで白南風町の坂の上に住み、週2回通う職場も近い。現在でも地域ネットワークをもっている。田代氏の担当は会員開発担当として就任。もっとも、研究会が発足初年度ということもあって、担当の枠を超えた活動を期待されている。

「第2回ワークショップを9月20日実施予定」

白南風町における坂の上の暮らし探しのためのワークショップを9月20日14時から16時まで白南風町36番10号の旧指山博義邸（2階旧ダンスホール）で開催いたします。

斜面地低未利用地再生事業
佐世保市との連携や県外調査を企画中。

防災シビックプライド育成事業
事業計画の再検討。

斜面モビリティ事業
「ノボロ」の市内斜面昇降する実験を行っている。